

平成27年3月24日

—世界的研究拠点の継続的創出に向けた取り組み—
平成26年度「広島大学研究拠点」を7拠点選定しました

[研究機能]

広島大学は、平成25年度に文部科学省「研究大学強化促進事業」の研究大学に選定、昨年9月には「スーパーグローバル大学創成支援事業（トップ型）」に採択され、10年以内に世界大学ランキングトップ100の総合研究大学に発展することを目標に、教育力・研究力の強化、国際化などに取り組んでいます。

本学の研究力強化への取り組みとして、総合研究大学の強みを生かし、基礎研究からイノベーション創出まで多様な「世界的研究拠点の継続的創出」を行うこととしています。平成25年度に、既に世界的水準にある自立型の研究拠点を含め、特に優れた研究拠点10拠点を選定して、研究マネジメント人材（リサーチ・アドミニストレーター）の配置、ポスドクなどの雇用経費支援、全学共有スペースの貸与などの重点支援を行っていますが、このたび新たに7拠点を選定いたしました。（別紙参照）

選定した研究拠点には、世界トップレベルの研究活動を展開するとともに、活発な国際研究活動を通じた国際研究ネットワークの形成、国際発信力向上などを期待するものです。今後も、特に優れた研究者・研究拠点への重点的支援を行い、その多様な研究成果を教育、社会貢献、産業活性化・イノベーションに繋げることで、人類の未来社会に貢献していきます。

【お問い合わせ先】

学術・社会産学連携室

研究企画室 小左古 学

TEL:082-424-5860 FAX:082-424-4592

世界トップクラスを目指す研究拠点(H26年度選定)

世界のトップクラスの研究大学になるためには、国際展開力・発信力を強化していく必要があります。その中心的役割を担う7の研究拠点を多様な分野から新たに選出しました。

(インキュベーション拠点)

本能行動の発現メカニズムに関する総合科学研究推進拠点

拠点リーダー 浮穴和義(総合科学研究科)

活動内容

生命科学・健康スポーツ科学・心理学・人文社会科学・医科学・教育学等の異なるバックグラウンドを持つ専門家が本能行動の発現メカニズムの解明を目指した学際的な研究を推進。生活習慣及び科学リテラシーの確立を目指します。

高機能難加工材の製造・先端加工システム開発による革新的ものづくり研究拠点

拠点リーダー 篠崎賢二(工学研究院)

活動内容

加工しづらくも、現代の生活では欠かすことのできない、重要な材料である、金属、樹脂、CFRP、繊維などの加工技術開発を推進。レーザー熱と種々の材料製造・加工技術をハイブリッド化した革新的ものづくり研究拠点を目指します。

スマートバイオセンシング融合研究拠点

拠点リーダー 黒田章夫(先端物質科学研究科)

活動内容

生命科学、物質科学、情報科学ナノエレクトロニクスという、バイオテクノロジーとエンジニアリングの融合研究を推進。ウェアラブルセンサーなどの開発を通じて、安全安心・健康長寿社会構築に向けたイノベーション創出を目指します。

環境共生スマート材料研究拠点

拠点リーダー 大下浄治(工学研究院)

活動内容

高機能で高性能にも関わらず、エネルギー消費の少ない、高性能な有機半導体やドラックデリバリーシステム等に活用できる環境共生スマート材料の創製と開発を目指します。

日本食・発酵食品の革新的研究開発拠点 -日本食の機能性開発センター-

拠点リーダー 島本整(生物圏科学研究科)

活動内容

少量のアルコール摂取の健康効果の実証を世界で初めて成功。日本固有の発酵食品(味噌や清酒、酒粕など)の健康効果に関する研究を推進し、日本食・発酵食品の世界への発信、さらなる発展に貢献します。

広島県の知と経験を基盤とした実践的平和構築学確立のための研究拠点

拠点リーダー 吉田修(社会科学研究所)

活動内容

紛争解決諸科学とフィールド諸科学との有機的融合を基盤に、広島県、国際協力機構、国連訓練調査研究所との密接な連携を構築。ヒロシマ発の応用平和構築学を確立します。

(研究拠点(自立ステージ))

社会実装指向型HiSENS 拠点

拠点リーダー 石井抱(工学研究院)

活動内容

センシング技術とその社会実装を中心とした分野融合研究を推進。ガラパゴス化しがちなラボ型研究とは一線を画した、社会適応した新たな形の先端センシング技術・実装研究拠点を目指します。

※拠点名称については(仮称)

○平成 25 年度選定拠点

【インキュベーション研究拠点】

拠点名称	拠点リーダー	分野
統計科学研究拠点	社会科学部研究科 教授・山田 宏	A
学習システム促進研究センター	教育学研究科 教授・池野 範男	A
キラル物性研究拠点	理学研究科 教授・井上 克也	B-1
極限宇宙研究拠点	理学研究科 教授・深沢 泰司	B-1
基礎研究を畜産技術開発につなげるトランスレーショナル型研究拠点	生物圏科学研究科 教授・吉村 幸則	B-2
広島大学健康長寿研究センター	先端物質科学研究科 教授・平田 大	C
緊急被ばくに即時対応できる再生医療研究拠点	原爆放射線医科学研究所 教授・東 幸仁	C

【研究拠点（自立ステージ）】

拠点名称	拠点リーダー	分野
クロマチン動態数理研究拠点	理学研究科 教授・楯 真一	B-2
ゲノム編集研究拠点	理学研究科 教授・山本 卓	B-2
広島肝臓プロジェクト研究センター	医歯薬保健学研究院 教授・茶山 一彰	C

分野：A=人文・社会・教育、B-1=理・工（材料系）、B-2=理・工（生物系）、C=医療系

研究拠点育成・選定システム整備

- 国際共同
- 分野融合
- 学際研究
- 産学連携

研究拠点

審査

5年ごとの評価
継続・改廃
(3年で中間評価)

自立ステージ

- 外部資金で自立
- 重点的人員配置
- **URA・技術職員**の配置※
(異分野融合・拠点活性化支援)
- 全学共有スペースの貸与

インキュベーション研究拠点

毎年4~5拠点

審査

3年以内の支援

インキュベーションステージ

- **URA・技術職員**の配置 ※
(異分野融合・拠点活性化支援)
- 全学共有スペースの貸与
- ポストクなど雇用経費支援

放射線ゲノム障
害・再生医療

平和・多文化共生

障がい者教育・
アクセシビリティ

プロジェクト研究センター 大型プロジェクト

脳と心・感性

産学連携プロジェクト 多様な萌芽的グループ

宇宙科学

革新的ものづくり

DP/DR中心の研究グループ

数理生命

環境・エネルギー

有機薄膜

半導体・ハイパー
ヒューマン

多様な研究グループの自発的ステージ

- 科研費など獲得支援(**URA**)
(助言制度、スタートアップ支援)
- 研究プロジェクト立ち上げ・
形成支援 (**URA**)

「研究拠点」「インキュベーション研究拠点」は
研究推進機構で選定、定期的な外部評価を行う